

製品名: CD2BP2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08334**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	CD2BP2
別名	CD2BP2; KIAA1178; CD2 antigen cytoplasmic tail-binding protein 2; CD2 cytoplasmic domain-binding protein 2; CD2 tail-binding protein 2
遺伝子 ID	10421.0
SwissProt ID	O95400
免疫原	抗血清はヒト CD2 テール結合由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

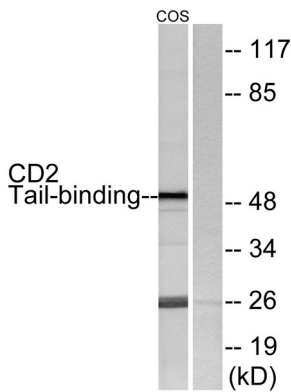
背景

この遺伝子は二機能性タンパク質をコードしている。細胞質内では、コードされているタンパク質は C 末端 GYF ドメインを介してヒ

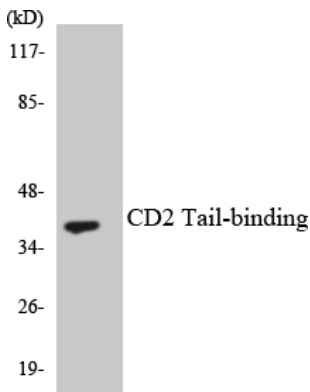
ト表面抗原 CD2 の細胞質側末端に結合し、CD2 誘導性 T リンパ球活性化を制御する。核内では、このタンパク質は U5 核内小核リボ核タンパク質複合体の構成要素であり、RNA スプライシングに関与する。7 番染色体上に偽遺伝子が同定されている。選択的スプライシングによって複数の転写産物バリエーションが生じるが、それらの生物学的妥当性は未だ明らかにされていない。[RefSeq 提供、2008 年 11 月],類似性: 1つの GYF ドメインを含む。 ,サブユニット: GYF ドメインを介して CD2 の細胞質側ドメインに結合する。 ,

研究分野

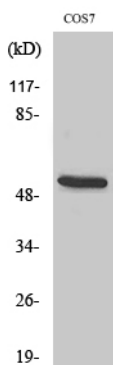
画像データ



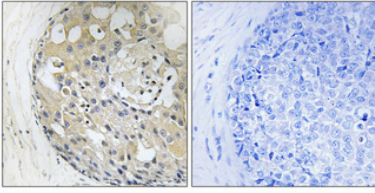
CD2 テール結合抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



CD2 テール結合抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CD2BP2 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。